

2023年2月7日

白滝ジオパーク推進協議会
会長 佐々木 修一 様

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也



第47回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2022年12月16日に行われた第47回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

この2年間で、前回の指摘事項については、概ねその解決に向けた対応を進めていることが確認された。

特に、事務局の体制については、この2年間で改善が進んだ点と、課題がまだ残されている点を確認した。改善された点としては、事務局自体の人員の増加はないものの、2022年から協議会の構成団体である6団体から、9名が事務局のワーキングチーム委員として選出され、事務局の事業計画の推進に関わる業務やジオサイトの整備・保全を担っている。

その一方で、課題として残されている点は、事務局における地質学分野の専門員の不在である。現時点では、考古学分野の職員が中心で、地質学分野を十分にカバーしているとは言い難い。来年度、白滝ジオパークで開催される国際黒曜石会議を契機に、事務局側から積極的に研究者とのネットワークづくりを進めるとともに、専門員の在り方について検討を続けてほしい。ジオツーリズムに関しては、災害復旧や新型コロナウイルス感染症拡大により、その活動が大きく制限された中でも、ネットワーク委員や地域の様々な活動団体と連携しながら、白滝らしいツーリズムを開発していることが確認された。今後はジオガイドの養成を通じた、より質の高いツーリズムの展開が求められる。

【優れている点】

- ・協議会の構成団体である6団体から、9名が事務局のワーキングチーム委員として選出され、事務局の事業計画の推進に関わる業務やジオサイトの整備・保全を担っている。事務局の運営が自治体職員だけでなく、地元の民間企業や団体が参画して、事務局体制を補完していることは、白滝ジオパーク独自の取り組みとして特筆に値する。
- ・ワーキングチーム委員や関係者の団体の活動は、生物多様性の保護をはじめとして、観光振興や地元の商品の開発など多岐にわたる。メンバーが白滝ジオパークの理念や目標を理解し、事務局と一緒に積極的にジオパークを発展させようとする意欲を感じることができた。
- ・ジオツーリズムに関しては、災害復旧や新型コロナウイルス感染症拡大により、その活動が大きく制限された中でも、ワーキングチーム委員や地域の様々な活動団体と連携しながら、白滝らしいツーリズムを開発していることが確認された。道の駅や、地元の農家、地

場産品開発者、ガイド事業者など、民間事業者のジオパークへの関心も高く、今後の連携の拡大に期待ができる。

【今後の課題・改善すべき点】

I できるだけ早く解決すべき課題

1. 2023年7月に開催される国際黒曜石会議の成果を拠点施設や広報媒体を用いて発信することで、ジオパークの遺産の価値と、可視性のさらなる向上を図ってほしい。
2. 地質学分野の専門員の雇用については、引き続きその可能性の検討を進めてほしい。ジオパーク活動の基礎である地球科学的知見を常時得られるように整備していただきたい。

II 中長期的に解決すべき課題

3. 中長期的な視点にたった人材育成

ジオパーク活動を実質的に担う人材の育成には、相応の期間と経験が求められる。JGNメンバーとして他地域への貢献を果たしていくという観点からも、中長期的な視点に立った人材の育成などが担保されるような人事計画案などを検討してほしい。

4. ジオパークエリアの可視性の向上

町内の観光協会と連携したサインの設置や、空港や道の駅などを含めインフォメーション施設になり得る場所に、パンフレットなどを設置し、図や写真を用いた解説、資料の展示を行うなど、情報収集とジオパークへの誘導が可能な工夫を検討してほしい。

5. ジオガイド育成による質の高いジオツーリズムの開発

ジオガイドについては、養成制度が整備の途上であり、来訪者がジオツアーを通年利用できる体制ではない。ジオガイドの育成を進めることで、黒曜石のみならず、地域の文化的資源とジオのつながりを紹介できるジオツーリズムの構築が望まれる。

6. ジオパークの中での防災・減災教育の推進

危機対策室との連携を強化し、地球科学的な視点を取り入れたジオパーク活動の中での防災・減災教育を展開してほしい。その上で、防災計画やハザードマップへのジオパークの関与を期待する。

7. ジオパークネットワークへの積極的な参加と貢献

ジオパークネットワークの行事への参加などは受動的な印象が強い。国際黒曜石会議をきっかけにネットワークへ積極的に働きかけ、他地域を巻き込む活動や提言を期待する。

8. 黒曜石資源の持続的な保全と利活用の検討

現在、在庫と代替となるガラスでまかなわれている体験用教材について、在庫の枯渇を見据えた持続可能なプログラム作りを本格化してほしい。研究や学会でのサンプリング等についても、資源の持続的な保全と利活用が可能な仕組み作りを検討してほしい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上